

題目：ウシのおとなメスと他子との親和的な関わりの探索的検討—関わるおとなメスと子の特性にも着目して—

氏名：山本ゆり

指導教員：瀧本彩加

哺乳類は母乳による子育てを行うため、母親が主に子育ての中心となるが、中には母親以外の個体が子どもの世話をを行うアロマザリング (allothering) を行う種が存在する。アロマザリングを行う種は、哺乳類では 70 種以上見られ、特に齧歯類、食肉類、有蹄類、霊長類で多数観察されている。ウシ (*Bos taurus*) は群居性の有蹄類で、置き去り型の子育てを行う動物であり、ウシにおいても他子授乳や防衛行動などのアロマザリングがみられる。しかし、ウシにおけるアロマザリングの研究は対象が他子授乳に偏ってきた。さらに、アロマザリングを行う個体、受ける個体の特性についてはほとんど研究されていない。そこで、本研究では昼夜集団放牧されているウシ（日本短角種）繁殖群のおとなメス 36 個体とその子ども 29 個体を対象に行動観察を行うことで、1. おとなメスと他子との間に親和的な関わりが見られるか、2. 他子に対して親和的なおとなメスと、母親以外のおとなメスに対して親和的な子どもにはそれぞれどのような特性があるか、を検討した。その結果、他子授乳、他子からおとなメスへの親和行動、おとなメスから他子への親和行動が見られた。親和的な関わりは、おとなメス 22 個体 (70.968%)、子ども 20 個体 (66.667%) で見られ、これらの行動がウシにおいて稀ではない可能性が示唆された。血縁を調べたところ、おとなメスと他子の親和的な関わりは血縁によって説明されるわけではないことが示唆された。また、ウシのおとなメスについて、子どもがいるか否か・出産経験回数・毛づくろいをした相手のおとなの数・毛づくろいを受けた相手のおとなの数は、他子授乳をしたか否か・他子に親和行動をしたか否か・他子から親和行動を受けたか否か・休息時に平均で何頭の子の最近接であったかに影響しているとはいえなかった。最後に、子ウシについて、性別・出生時体重・休息時の母親との最近接率は、他子授乳をしてもらったか否か・母親以外のおとなメスに親和行動をしたか否か・母親以外のおとなメスから親和行動を受けたか否かに影響しているとはいえなかった。本研究では、親和的な関わりを見せる個体の特性を明らかにすることはできなかったが、放牧下のウシのおとなメスと他子の間に親和的な関わりが見られたことは、今後のウシのアロマザリング研究に前向きな展望をもたらすものである。